

日本言語学会第 164 回大会 プログラム

会 長 福井 直樹
大会運営委員長 江畑 冬生

期 日：2022 年 6 月 18 日（土）・19 日（日）

会 場：オンライン（Zoom および oVice）

E-mail：lsj@nacoss.com（開催期間中を除く。開催中の連絡先は後日公開いたします。）

※オンライン大会登録受付システムにて、事前に参加登録と参加費の支払いが必要です。大会登録受付期間は、5月10日（火）～6月12日（日）です。登録を済ませた方にのみ、Zoom ミーティング ID と oVice URL をお知らせします。

※公開特別シンポジウムは、Zoom ミーティング（事前登録制）と YouTube におけるライブ配信（一般公開：URL は後日公開）の同時配信を行います。また大会後に録画を YouTube でも公開します。口頭発表およびワークショップの録画は、大会後 1 週間の間、参加登録をされた方にのみ公開します。

— 前日（6月17日） —

15:00–17:00	評議員会（評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）
-------------	-------------------------------------

— 第 1 日（6月18日） —

10:20–15:50	口頭発表（Zoom 詳細は 2-3 頁にあります。）
16:00–17:00	ポスター発表（oVice 詳細は 3 頁にあります。）
17:00–19:00	懇親会（oVice）

— 第 2 日（6月19日） —

10:00–12:00	ワークショップ（詳細は 4 頁にあります。）
13:00–13:45	会長挨拶，日本言語学会学会賞授賞式，会員総会
14:00–17:00	公開特別シンポジウム「言語脳科学が切り開く言語学の未来」 <企画> 太田 真理（九州大学） <登壇者> 「脳科学と言語学の共同研究について考える」酒井 邦嘉（東京大学） 「新たな言語の獲得において多言語話者で増進した脳活動 — MRI 装置を用いた実証研究」梅島 奎立（東京大学） 「理論言語学者が見た言語脳科学」中村 一創（東京大学） 「言語学と脳科学の共同研究には何が足りないか？」太田 真理（九州大学）

*本シンポジウムは、言語系学会連合・日本言語学会による共同開催です。

■口頭発表（6月18日(土) 10:20-15:50)

	A会場	B会場
	司会：[1-3] 浅原 正幸, [4-5] 米山 聖子, [6-7] 品川 大輔	司会：[1-3] 大島 デイヴィッド 義和, [4-5] 田村 早苗, [6-7] 西岡 美樹
10:20-10:50	[A-1] 林 真衣 タガログ語において名詞の意味が語順にもたらす影響	[B-1] 田口 智大 名詞述語を伴う繰り上げ構文としての人魚構文
11:00-11:30		[B-2] 難波 えみ 日本語の副詞的表現による主語に対する指向性の成立条件
11:40-12:10	[A-3] 松山 芳瑛 チェコ語における所有の与格の統語的性質 — 所有対象に焦点を当てて—	[B-3] 中川 奈津子, 林 由華 日本語における対比のハは焦点ではなく主題である
12:10-13:20	(休憩)	(休憩)
13:20-13:50	[A-4] 谷川 みずき, 長屋 尚典 ノルウェー語で <i>komme</i> 「来る」はいつ使われるのか：ビデオ実験による分析	[B-4] 森 貞 「なぜ」を含む多重疑問詞疑問文に関する認知言語学的考察
14:00-14:30	[A-5] 菅谷 友亮, 大喜 祐太 存在表現の生起条件に関する英独対照 — 実験的手法を用いて	[B-5] 尹 聖樂 「るなら」と「たなら」の使い分け
14:30-14:40	(休憩)	(休憩)
14:40-15:10	[A-6] Anusha Manoji WEERAKKODI A Study on the Usage of Demonstratives in Sinhala Discourse (Including cognitive and statistical analysis)	[B-6] 張 倩倩 体言化理論によるサンスクリット語関係節の再分類および体言化辞 <i>yad</i> の通時的变化
15:20-15:50	[A-7] 石塚 政行 バスク語の動詞 <i>ari</i> 「する」と共起する副詞は補語か修飾語か	[B-7] 水野 庄吾 ロシア語の形容詞短語尾形について

	C会場	D会場
	司会：[1-3] 星 英仁, [4-5] 柴崎 礼士郎, [6-7] 黒木 邦彦	司会：[1-3] 原 由理枝, [4-5] 堀 博文, [6-7] 松浦 年男
10:20-10:50	[C-1] 大久保 弥 「それも」構文の省略分析	[D-1] 井原 駿, 水谷 謙太 最上級修飾語の QUD-sensitivity: 新グライス派と構造理論によるアプローチ
11:00-11:30	[C-2] 北田 伸一 名詞化の方法	[D-2] 徐 子程 もう一つの Exhaustification の三値理論: 選言における不知推論のケーススタディー
11:40-12:10	[C-3] 宗像 孝 非範疇「と」の統一分析 — 自由付加と統語環境をめぐって	[D-3] Akitaka YAMADA Subject-honorific markings in imperatives: An OT-driven dynamic pragmatics
12:10-13:20	(休憩)	(休憩)
13:20-13:50	[C-4] 嶋村 貢志, 福田 純也 与格交替における CAUSE-HAVE について	[D-4] 中本 舜 東チナンテク語の格配列
14:00-14:30	[C-5] 森 創摩 主観化の観点から <i>always</i> と共起した進行形についての考察	[D-5] 内原 洋人 トラパネク語の声調拡張と有標性パラドクス
14:30-14:40	(休憩)	(休憩)

14:40-15:10	[C-6] 三好 伸芳, 窪田 悠介 直喩表現と前提性	[D-6] 陳 凱僑 語構造の観点から見た広東語フットの考察
15:20-15:50	[C-7] 當山 奈那 琉球諸語における二重使役構文の述語形式	[D-7] 趙 蓉俊子 蘭銀官話の“V 給”構文の多機能性 — 与害用法を中心に

	E 会場	F 会場
	司会 : [1-3] 松岡 和美, [4-5] 白井 聡子, [6-7] 金 廷珉	司会 : [1-2] 大滝 宏一, [5-7] 大崎 紀子
10:20-10:50	[E-1] 浅田 裕子 動詞由来複合語の統辞構造 — 日本語・日本手話における観察から	[F-1] 矢野 雅貴 ひとはなぜ高速な言語処理ができるのか — BCCWJ-EyeTrack を用いた予備的調査 —
11:00-11:30	[E-2] 上田 由紀子, 内堀 朝子 日本手話(愛媛方言)における接続詞としての非手指表現(NMM)について	[F-2] 太田 真理, 田中 颯真, 山田 絵美 ミスマッチ陰性電位による連濁の神経基盤の検討: ライマンの法則の違反と音韻的逸脱は異なるか?
11:40-12:10	[E-3] 内堀 朝子, 上田 由紀子 日本手話(愛媛方言)に見られるいわゆる等位接続構造制約違反について	
12:10-13:20	(休憩)	(休憩)
13:20-13:50	[E-4] ムンフダラム・バスバヤル モンゴル語の存在を意味する動詞 <i>bajna, bajгаа, bajdag, bij</i> の使い分け	
14:00-14:30	[E-5] 外賀 葵 モンゴル語 2 人称所有接語の非所有用法: 3 人称所有接語との比較から	[F-5] 鈴木 唯 トルコ語における事象統合と補文節の選択: コーパスに基づく量的研究
14:30-14:40	(休憩)	(休憩)
14:40-15:10	[E-6] 許 燕 副詞「せっかく」における日中韓対照研究 — 「特意(teyi)」と「모처럼(mocheoreom)」との比較を通して —	[F-6] アクマタリエワ・ジャクシルク キルギス語における「素早さ・突然性」を表す補助動詞
15:20-15:50	[E-7] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の 3 人称単数独立人称詞の談話モダリティ用法と主題化	[F-7] 日高 晋介 ウズベク語における小詞 =chi の機能

■ポスター発表 (6月18日(土) 16:00-17:00)

16:00-17:00	[P-1] 金子 真 推量を表すダロウと意志を表すシヨウの疑問再考
	[P-2] 岩崎 加奈絵 ハワイ語の方向詞における「基準点」の選択
	[P-3] 山岡 翔 ベトナム語北部方言の声調体系の再考: 音声の産出情報に着目して
	[P-4] 菅沼 健太郎 富山県富山市方言の動詞アクセントにおける唇気楼促音
	[P-5] 落合 守和 裁判档案から見る清代口語の南北諸相
	[P-6] 谷口 龍子, 大久保 弥, 野元 裕樹, 南 潤珍 代名詞代用・呼びかけ表現の多言語データセット

■ワークショップ（6月19日(日) 10:00-12:00)

10:00-12:00	[W-1] 叙述類型研究の新たな試み —非典型的な事象叙述・属性叙述をめぐって— 企画者・司会者：眞野 美穂
	[W-1-1] 事象から属性へ —ラレル形動詞構文の事例— 益岡 隆志
	[W-1-2] 動作動詞の属性叙述機能について —主題標識のない中国語の工夫— 沈 力
	[W-1-3] 知覚表現による属性叙述 —「ガスル」型の文と「ヲシテイル」型の文の主題— 岩男 考哲
	[W-1-4] 名詞述語文による事象叙述 眞野 美穂
10:00-12:00	[W-2] 語彙と語用のはざままで 企画者・司会者：日高 俊夫 コメンテーター：中谷 健太郎
	[W-2-1] 動詞「掘る」の多義性について 澁谷 みどり
	[W-2-2] 3種類の <i>kko</i> —接辞と慣習的推意の接点— 木戸 康人
	[W-2-3] 「普通においしい」は何が普通なのか？ 日高 俊夫
	[W-2-4] 節周縁部と「じゃないか」系表現 森山 倭成
10:00-12:00	[W-3] 日琉祖語再建に向けての新たな展望：琉球諸語の視点から 企画者：セリック・ケナン 司会者：青井 隼人 コメンテーター：平子 達也
	[W-3-1] 日琉祖語の韻律体系再建に向けて —今後の課題— 松森 晶子
	[W-3-2] 琉球祖語における非狭母音 *e, *o の再建の再検討 中澤 光平
	[W-3-3] 2音節名詞第4/5類に対応する琉球祖語B類は改新であるとする仮説 五十嵐 陽介
	[W-3-4] (先) 日琉祖語の語形成に関する試論 セリック・ケナン

お知らせ

◆Zoom/oVice へのアクセスについて

接続に必要な機器・環境（ウェブカメラ、パソコン/タブレット、マイク/イヤホン、インターネット接続）は、参加者各自でご準備ください。

◆oVice（オヴィス）体験会

ポスター発表、休憩室、懇親会等で使用する oVice の体験会を大会三日前より常時実施します。アカウント不要で、ブラウザ（Chrome 推奨）があれば使うことができます。ぜひ大会前にお試してください。

◆大会参加費

大会に参加するには、事前の参加登録が必要です。参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円です。大会登録受付期間は、5 月 10 日（火）～6 月 12 日（日）を予定しています。**事前登録と参加費の支払いを済ませた方に、学会 Zoom へのアクセス方法をお送りします。**送信は学会の三日前を予定しております。

◆大会参加証

大会参加証明の必要な方は、会期中に休憩室（oVice）内の参加証リンクにアクセスして取得してください。

◆予稿集

予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。

◆手話通訳などについて

手話通訳や字幕表示の支援を必要とされる方は、5 月 16 日（月）までに学会事務支局（lsj@nacos.com）にお申し出ください。

◆会員懇親会

会員懇親会は、oVice で開催します（ポスター発表と同じ会場です）。会場へのリンクは、事前登録と参加費の支払いを済ませた方向けのプログラムに掲載します。会費は、無料です。

◆書籍展示

書籍展示は、ウェブ上になります。各書店の特設サイト等を学会ホームページに掲載します。一部書店は、oVice 内の休憩室に特設ブースを出店予定です。

◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー

大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。

事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回大会予告（2022年秋季大会：第165回大会）

場 所：沖縄国際大学（オンライン開催への変更可能性あり）

日 程：2022年11月12日（土）・13日（日）

公開シンポジウム，口頭発表，ポスター発表，ワークショップ

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

- ・発表応募締め切り 2022年8月20日（土）（必着）
- ・採否通知 2022年9月中旬

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com